令和２年度第１回倉敷市地域包括支援センター運営協議会議事要旨

１　会議名

令和２年度第１回倉敷市地域包括支援センター運営協議会

２　開催日時

令和２年１０月７日（水）　１３：３０～１５：００

３　開催場所

倉敷市役所本庁舎７階７０１会議室

４　出席者

（１）委員（１３名）

石崎　英子　　（倉敷市老人クラブ連合会）
猪木　真弓　　（岡山県介護支援専門員協会倉敷支部）
今井　博之　　（倉敷市連合医師会）
内田　修子　　（倉敷ねたきり・認知症家族の会）
大久保　ますみ　（岡山県看護協会倉敷支部）
岡本　育子　　（倉敷市愛育委員会連合会）
川上　富雄　　（岡山県社会福祉士会）
佐藤　壽子　　（倉敷市栄養改善協議会）
嶋田　武　　（岡山県備中県民局健康福祉部）
妹尾　波枝　　（岡山県薬剤師会倉敷支部）
田辺　牧美　　（倉敷市議会保健福祉委員会）
津田　由起子　　（倉敷市介護保険事業者等連絡協議会）
永瀬　潤一　　（倉敷市民生委員児童委員協議会）

（※下記３名が欠席）

川西　三貴　　（倉敷市内歯科医師会協議会）
清水　加奈子　　（岡山弁護士会）
中上　由美子　　（倉敷市社会福祉協議会）

（２）事務局（１０名）

渡邊　浩　　（健康福祉部　部長）
林　　徹　　（健康福祉部　参事）
檜垣　みちよ（地域包括ケア推進室　室長）
吉田　猛　　（健康長寿課　課長代理）
守屋　直樹　（介護保険課　課長補佐）
高橋　祥子　（地域包括ケア推進室　主幹）

多田　城太郎（福祉援護課　主任）
同前　和也　（地域包括ケア推進室　主任）
本山　和人　（　　〃　　副主任）
横田　由紀子（　　〃　　嘱託）

5　議題
（1）令和元年度高齢者支援センターの事業報告について
（2）令和元年度高齢者支援センターの事業評価について
（3）その他

6　傍聴者の数
無し

7　審議内容
1）開会

2）あいさつ
渡邊健康福祉部長が開会挨拶

3）自己紹介
委員自己紹介
事務局自己紹介

4）会長・副会長選出
会長　：今井　博之委員（倉敷市連合医師会）
副会長：川上　富雄委員（岡山県社会福祉士会）

5）議事
（1）令和元年度高齢者支援センターの事業報告について
事務局より説明の後，質疑応答。

副会長：玉島東高齢者支援センターに関して収支が他のセンターに比べてマイナスが大きいが理由は何か。

事務局：制服のリニューアルやパソコンの入れ替えなど事務費の部分において支出が多くなったと聞いている。

会　長：ケアマネ交流会の中にグループスーパービジョンというのがあったが，これはどういう方式か。会議で使えるのであれば知りたい。

事務局：各地域のケアマネジャーは困難な事例を抱えていることが多く，ケアマネ交流会では架空のものを含めて事例検討会をすることがある。その中で，例えば虐待等困難なケースに対して，グループワークを通じて、具体的に意見を出し合い，支援方針など検討しているというものである。

会　長：モニターを使うシステムではなく，みんなが集まって大きな視野でみようということか？

事務局：ご認識のとおりである。

会　長：高齢者支援センターの職員研修会は全職員を一堂に集めて行うものか。それとも何人かずつ出してするものか。

事務局：開催する研修内容に応じて参加者が変わっていて，市が企画をしている中堅者，管理者など階層別の研修は経験年数や役職で分けて募集をかけている。各職種部会の企画する研修は全体に募集をかけている。

会　長：基本的には希望者が参加するものか。各センターから必ず１～２名参加しないといけないものか。

事務局：希望者が参加するものとしていて，強制はしていないが、概ね各センター１名は参加している。

委員Ａ：高齢者虐待の状況について，前年度に比べて相談件数が増えてきて，特に経済的虐待，介護放棄が増えているように見えるが，何か特徴的なことはあるか。

事務局：経済的に困窮している世帯の話をよく聞いていて，それらの世帯は，複合的な問題を抱えていることが多い傾向である。家族が退職を余儀なくされたり，疾患や障がいのために仕事に就けないなどの理由から，高齢者の年金のみで世帯の生活を賄っている場合がある。その高齢者の年金を障がいのある家族が使い込んでしまうことで，必要な介護サービスを受けることができない状況もみられる。そのような場合は，各高齢者支援センターが家族の就労のために，生活自立相談支援センターにつないだり，必要に応じて成年後見制度を活用するなどの対応を行っている。

委員Ｂ：総合相談件数が減っている理由は何か。コロナの影響があったのか。コロナの影響がある中でも，相談しやすい工夫があったら教えてほしい。

事務局：令和元年度の実績報告における，コロナの影響は令和２年３月の１か月分が該当すると思われる。令和２年３月～６月は全体的に相談件数が減っている。地域からの相談が減って

いることよりも，コロナの影響でセンター職員が訪問できなかったことにより，問題の発見ができず，相談を受けにくかったことが原因と思われる。それに対してセンター職員は，センター間で情報交換しながら家でできるような体操のパンフレットを作成し，地域の高齢者宅へポストインした後で，電話での心身機能の低下予防を呼び掛ける取り組みを行った。その他，総合相談の実数に関して，減っている大きな要因としては，真備高齢者支援センターの委託先法人の変更にともない，引継ぎの業務の比重が大きくなったために真備高齢者支援センターの相談件数が減ったということもある。

（２）令和元年度高齢者支援センターの事業評価について
事務局より説明の後，質疑応答。

副会長：倉敷南が転倒骨折予防教室の多い理由や玉島東センターの家族介護者教室が多い理由は，やり方の工夫などがあったのか，補足説明をしてほしい。

事務局：各種教室の開催回数の違いは法人の考えや，各センターの年間目標により差がある。倉敷南は町内単位で会場をたくさん回って，多くの方に介護予防の重要性を伝えようという活動計画のもと行った結果である。実態把握調査も地域を回ることに重点を置き，調査をするための専門の職員を雇用するセンターもあり，センター間において調査件数の違いが出ている。

会　長：玉島東についてはどうか。

事務局：玉島東は地域によく出向くセンターであり，地域の通いの場から声がかかることも多い。また，法人が地域貢献や教室開催に力を入れているとも聞いている。それらを通じて教室などを開催することが多い。

（３）その他
別紙「特定事業所が提供するサービスへの偏りについて」
事務局より説明。質疑応答はなし。

６）閉会挨拶
林健康福祉部参事が閉会挨拶